

全国防災ジュニアリーダー育成合宿 宮城(花山)と熊本(阿蘇)で開催

「全国防災ジュニアリーダー育成合宿」(独立行政法人国立青少年教育振興機構主催)が宮城(東日本方面)と熊本(西日本方面)でそれぞれ開催され、本校が主管校としてその役割を担いました。これは、未来の防災・減災の担い手である全国の中学生・高校生を中心とした取組で、4か年で計画・開催し、防災リーダーを養成する合宿として行われるものです。

「全国防災ジュニアリーダー育成合宿 東北」は、本校と国立花山青少年自然の家、栗駒山麓ジオパークを主会場に、8月17日(土)～19日(月)の日程で開催されました。

北海道奥尻高校や被災3県を中心に北海道・東北・北陸・関東各方面の高校14校、また、岩手県釜石中学校など中学校3校の中学生・高校生63名が参加し、好天の下、有意義な研修会となりました。

本校生徒が案内する震災伝承活動の「まち歩き」からスタート。初日は親睦を深め合う研修となりました。2日目は、本校生徒会がファシリテーターとなり「多賀城高校オリジナルDIG」のワークショップや、地学巡検として自然の家の活動プログラム「沢活動」を行いました。



3日目は、国立花山青少年自然の家から移動し、2008年の岩手・宮城内陸地震の現場を見学しました。見学した場所は、駒の湯温泉と荒砥沢地すべりの2ヶ所です。当日は、宮城県築館高校の生徒がガイドとなって各グループを案内してくれました。地震を体験した駒ノ湯温泉のご主人からのお話を伺うことができ、当時の土砂崩れの様子や復興までの取り組みについて学びました。また、荒砥沢地滑りは、国内でも最大級の地震による地すべりの現場だということが初めてわかりました。今回は地滑りの現場を、山の上側からと、その下側にあるふれあい公園から見学し、参加者はその地滑りの仕組みを理解し、またスケールの大きさに触れることが出来ました。閉講式は、栗駒ジオパークビジターセンターで行われ、2泊3日の日程を終えました。最後は2名の生徒から今回の合宿について感想が発表されました。

「全国防災ジュニアリーダー育成合宿 阿蘇」は、11月15日(金)～17日(日)熊本県にある国立阿蘇青少年交流の家を中心に研修会が行われ、本校より本間優輔さん(普通科1年)と櫻井乃綾さん(災害科学科1年)が参加しました。

熊本県阿蘇地域は、平成28(2016)年4月に2回に及ぶ最大震度7の地震に見舞われ、また、火山活動も継続して続いている地域にあって、この合宿には熊本県の高校をはじめ主に西日本の中学校・高校20校の生徒51名が集いました。

まず、立野ダムや高野台という立野被災地を見学。その後、熊本大学特任准教授の鳥井真之氏により講義「熊本地震から学ぶ自然災害との付き合い方」を受けました。また、「災害…浮かび上がる暮らしの課題熊本地震と現代社会」という題で、熊本日日新聞社論説委員・小多崇氏の講演を聞きました。

2日目は、阿蘇ジオパークガイドの方や語り部ボランティアに取り組み東海大学の学生の話聞き、最終日には熊本県立第二高等学校の生徒の案内で復興途上である熊本城を見学することができました。

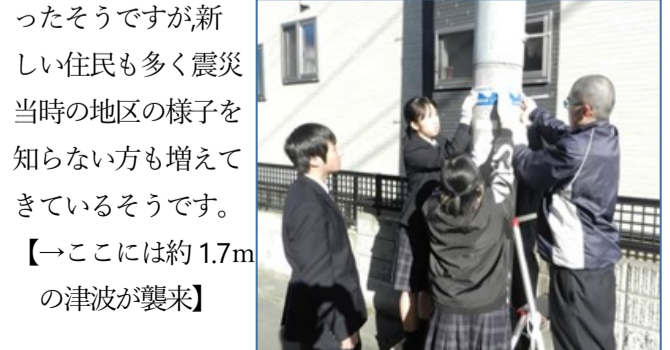


震災伝承活動～津波波高標識設置活動 多賀城市八幡地区に新たに設置

都市型津波に襲われた多賀城市内の被害状況を後世に継承するために、震災の翌年から津波が到達した高さを示すプレートを電柱などに設置する活動を行っています。今年度は、新たに多賀城市の八幡地区で活動を展開。

当日は、八幡上二地区より区長さんをはじめ3名、多賀城市交通防災課より1名、本校防災委員生徒4名が参加しました。また、設置後には、区長さんから震災当時のお話や地域住民への思いをお伺いすることができました。

この地区は、多くの住民が自宅を修理・再建し地域に残ったようですが、新しい住民も多く震災当時の地区の様子を知らない方も増えてきているそうです。



【→ここには約1.7mの津波が襲来】

令和元年度

多高通信

年間

特集号

まち歩き
多賀城イオンから出発
↓
自衛隊国土交通省波高標識
↓
歩道橋
↓
末の松山
↓
多賀城駅
↓
モニュメント



〈多賀城高校震災伝承活動「まち歩き」〉
都市型津波に襲われた多賀城市内の被災状況を後世に継承するため、震災の翌年から津波が到達した高さを示すプレートを電柱などに設置。そのプレートと市内の史跡を巡るボランティアは生徒会を中心に受け継がれています。

東北工業大学・船木尚己氏 ◇災害と住まい 「災害に強い住宅」



津波模型を使い、住宅の構造を考察

TBC 気象台・星野誠氏 ◇災害と気象 「気象情報と災害」



災害情報の問題点について解決策を検討し、発表。

ミヤギテレビ・柳瀬洋平氏 ◇災害と報道 「震災とテレビ報道」



災害報道の在り方と課題を提起。震災時の放送局の状況も教えていただきました。

立命館大学・開沼博氏 ◇災害と復興

福島を取組を例に、震災とその後の復興について様々な視点で話し合いました。



防衛省東北防衛局 佐藤孝洋氏 ◇災害と行政

震災時の行政の役割と復興状況、危機管理について学びました。



多賀城市消防署 ◇災害と医療 救急救命講習

皆真剣な様子で、心肺蘇生の方法を学びました。



この他にも、石巻赤十字病院・吉田のみ氏、パシフィックコンサルタンツ・石河雅典氏、宮城大学・高橋和子氏より専門的かつ深い学びにつながる講義・演習をしていただきました。



フォーラムでは、福島第一原子力発電所内サイト(1E)の視察や、廃炉に向けた研究開発の取組の現状や福島イノベーション・コースト構想について学びました。

災害科学科・学校設定科目「くらしと安全B」(3年次)
各専門家を特別講師に 多彩な授業を展開

福島第一廃炉 フォーラムに参加

8月2日からの3日間、富岡町を主会場にした「第4回福島第一廃炉フォーラム・学生セッション」(原子力損害賠償・廃炉等支援機構(NDFE)主催)に、本校科学部の代表4名が参加してきました。